

<p align="center">< 感謝 & お願い ></p> <p>緊急度の高い医療からと、サムラングにライフセンターを建設してから丸 10 年になります。ともに支えて下さった会員の皆様はもちろん、これまでに協力いただいた市民、団体の皆様に感謝して 10 月にささやかな記念イベントを予定しています。アイデアをお寄せ下さい。</p>	 <p>2006 年 4 月 28 日発行</p>	<p>NPO 法人ビラーンの医療と自立を支える会 (英文名略称・HANDS) 227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 516-11 TEL:045-962-0824 FAX:045-962-1933 E-mail: hands-ty@r07.itscom.net http://www.jca.apc.org/~hands/ 郵便振替口座 00210-5-72693 (加入者名) ビラーンの医療と自立を支える会</p>
---	--	---

－ 森と人を育てる新たな 10 年に向かって －

「村人から要請を受けて総面積 4750 m²の先祖伝来の土地保証(CADC)を受けたドグマ山系の 7 村を訪ねた。周りはすべて契約栽培によるバナナやパイナップルの畑で囲まれていた。この 7 村も焼畑に頼っているのは、わずかに残る森もすぐ消滅する。このままだと急斜面のコーン栽培で土壌浸食を悪化させるか、大農場と契約して商品作物の単一耕作に移行するかしかない」 - 現地協力組織 PFP のメール(4/10)より -

私たちはここ数年間、PFP に協力してミンダナオ島南部ロハス山系及びドグマ山系で傾斜地農法によるアグロフォレストリーを進めてきました。環境修復と先住民族の収入向上に有効かどうか、真の評価はこれからです。初年度に植えた果樹苗が、ようやく本格的に収穫が始まるという段階です。しかし、このメール報告のように、PFP の指導と支援に期待し、持続可能な農業を行うことで住み慣れた山で経済的に自立したい先住民族の村はまだまだまだたくさんあるようです。

マトン山のふもとに広がるドール・パイナップル農場の真ん中で、ビラーンの土地を返せと作業道に小屋を建てて抗議中の住民に会ったのは 1996 年 4 月のことです。サムラングでは、銅山会社の求めに応じて土地提供同意書に拇印を押してしまった住民たちが、同意書の無効を求めて裁判で争っていました。これら土地問題で結束する住民との出会いは、3ヵ月後の HANDS 立ち上げのきっかけとなりました。今 10 年が経過して、土地や開発資本に対する住民の選択がずいぶん多様化したと感じています。大農場との契約によるパイナップル栽培が急速に拡大し、近隣の学校では、ドール払い下げのトタン板を校舎の屋根補修に使い、教室には寄贈された頑丈でカラフルな椅子が並んでいます。

「山の村々で持続可能な農業を指導したい。力を貸してください。」この 3 月、国立 MSU の農業経済コースを終了した元 HANDS 奨学生ボニファシオからもこんな趣旨のメール(4/2 付)が届きました。新卒のボニファシオにできることは限られています。しかし、先祖伝来の土地で持続可能な農業を学び、経済的に自立したいという住民の希望と選択があり、一緒に働きたいというパートナーが現地にいる限り、私たちも先住民族支援の原点に立ち返り、同時に状況の変化に柔軟に対応しながら活動を続けたいと思います。



駐在予定スタッフの相田さん
マーベル駐在事務所家主の
オーランさんの家族と

民族の伝統技能を女性の自立に結びつけるためハンディクラフトの販路拡大努力を続ける COWHED、薬草利用や鍼灸導入と村の保健ボランティア育成で貧しいモロの村の健康増進をはかる PIHS。これら二つの女性主導の組織も、CMB、PFP とともに私たちが先住民族の経済的自立を支援する上で大切なパートナーです。そして、パートナーとの連携を一層深め、私たちに欠けていた住民の声を直接聞く機会を増やすために、初代駐在員として相田さんがこの 5 月(総会承認後)正式に赴任します。 (山崎)